指導案①

**地震防災学習　指導案**

年　月　日（　）第　校時

学年　小学校低学年

児童数　　　名

場所　　　教室

指導者

**１　題材名**　「地震が起こったらどう身を守る？」

**２　題材について**

（１）児童の実態

（小学校の立地、児童の人数、特徴などを書く。）

　（２）題材設定の理由

　　　地震防災の学習は以下の内容を基本とする。

* ハザードの理解（なぜ地震が発生するのか）
* 地震への備え（ハードとソフト）
* 地震発生時の対応（直後の身を守る方法から避難、救出・救助、支援、避難所生活など）

小学校低学年の児童の発達段階を考えると、最優先に教える項目は地震発生時の身の守り方である。児童はいつも教師や保護者に守られているわけではない。大人と離れて一人でいるときもあるし、大人と一緒にいても瞬時の判断を自分で下す必要に迫られることもある。そのため、身の回りの状況を見て、どこが危険でどこが安全かを判断できる力を身につけることが大切である。

**３　評価規準**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 集団活動や生活への  関心・意欲・態度 | 集団の一員としての  思考・判断・実践 | 集団活動や生活についての  知識・理解 |
| 評価規準 | 自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。 | 小学校での生活を楽しくするために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。 | 小学校での生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。 |

**４　事前の指導**

　（事前の学習との関連があればそのことを記入する。）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
|  |  |  |

**５　本時のねらい**

　地震発生時に、自分の判断で身の安全を図ることができるようになる。

**６　本時の展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指すこどもの姿と評価方法 |
| 導入 | 地震被害（室内）の写真を見て思ったことを発表する。   * 物が散乱している。 * 家具が倒れている。 * ガラスが割れている。   など。 | 写真から災害の様子をイメージさせる。  　怖がらせるのではなく、防災を学べば安全であることを強調する。 | 写真の中の被害と自分の日常の生活を結びつけて考えようとしているか。 |
| 展開 | 今いる教室の中を観察して、地震発生時に危険だと思われる個所を考える。  　考えた危険個所を発表する。理由も言う。 | こどもたちの発言を引き出し、こどもたちが指摘した場所に行ってその危険の理由を聞いて、補足説明する。  黒板に、危険個所を書いていく（事前に絵と文字のカードを準備して貼っていくとスムーズにいく）。 | 積極的に危険個所を見つけようとしているか。  　ほかの人の意見に耳を傾け、尊重しているか。 |
|  | 危険個所を聞いた後で「全部覚えておきましょう。できますか」と話しかける。教室だけではなく自分の家、親せきや友達の家、スーパーマーケット・・などたくさんの場所の危険を覚えることができるかどうか、問いかける。 |  |
| 教師の問いかけに答えながら、黒板に貼っている危険個所を同じようなものに分類していく。 | こどもたちに似たものはどれとどれかを問いながら、危険個所を４つに分類する。それぞれなぜ危ないかを考えさせる。 | 分類作業に積極的に参加しているか。 |
| ４つに分類された結果を見て、それぞれなぜ危ないかを考える。 | 「４つの危ない」をこどもたちから引き出す。  ・落ちてくるから危ない。  ・倒れてくるから危ない。  ・移動してくるから危ない。  ・割れるから危ない。 | 分類結果から帰納的に「４つの危ない」を考えだそうとしているか。 |
| 「４つの危ない」を考えて、危険ではない場所に移動する。 | 「教室の中の安全な場所を探して移動しよう」と話し、実際に移動させる。 | 安全な場所を考え、移動できるか。理由も言えるか。 |
| 安全な姿勢を考え、実際にその姿勢をとる。 | 安全と思われる場所に移動したら「どんな姿勢が安全ですか」と問いかけ、まず考えさせる。その後、安全な姿勢を取らせる。 | 安全な姿勢を考え、その姿勢を取ることができるか。理由も言えるか。 |
| 「４つの危ない」をなくすためにはどうしたらいいかを考える。 | 「４つの危ない」がないようにするにはどうしたらいいかをグループで考えさせる。  「備え」の大切さに気付かせる。 | 積極的に話し合いに参加し、　ほかの人の意見に耳を傾け、尊重しているか。 |
| まとめ | 「４つの危ない」を声に出して言う。 | 「つ４の危ない」を復唱させる。 | 「４つの危ない」を覚えているか。 |
| 地震発生を仮定して安全な場所に避難して身を守る姿勢を取る。 | 最後に、地震が発生したと仮定し、その場で避難訓練を行う。 | 自分で考えて、安全な場所で身を守る姿勢を取れるか。 |

７　事後の指導

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
| 家にいるときに地震が発生したらどこに逃げるか、どこでどんな姿勢を取るかを家族と話し合い、次の防災の学習時に発表する。  「４つの危ない」について考え、どう備えればいいかを相談する。 | 家族で話し合った内容を発表させる。話し合いができていないこどももいるかもしれないので配慮する。  一か所に決めるのではなく自分がいる場所の中で一番安全な場所を瞬時に探すことの大切さを伝える。  家族との話し合いでは、「４つの危ない」をなくすためには「備え」が大切であることに気づかせる。 | ４つの危ないに沿って話し合いをしているか。  「備え」の大切さに気付いているか。 |

以上